



大人が絵本を 第52回 絵本の日アワード2018



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

風は西から !!

2018年、プロ野球日本一に輝いた福岡ソフトバンクホークスは、ビブリオキッズが根を張る地元の球団として、レギュラーシーズンリーグ2位という成績にありながら、頂点にまで上り詰める快挙をみせ、夢と感動を与えてくれました。その日本シリーズを戦ったのは広島東洋カープで、両チームの投打走攻守におけるファインプレーの連続に見る大激闘は、老若男女を興奮の渦に巻き込みました。「山陽新幹線シリーズ」とも称された平成最後のシリーズは、福岡と広島という日本の西で繰り広げられる筋書きのない熱いドラマを、全国へ届ける形となったのです。

「風は西から」。私たちビブリオキッズも、2012年の創館当初より、西からの発信力を高める活動を絶賛展開中です。創館と同じ年に制定された「絵本の日」(11月30日)は、ビブリオキッズが誕生して最初に、医療法人元気が湧くが興した西からの風です。

11月30日は「絵本の日」

外国の優れた絵本と児童文学を生き生きとした日本語で翻訳し、また精力的に昔話の再話や物語の創作を重ねて、それらに加え、児童書の評論や研究活動など、戦後の子どもの本の世界を先頭になって切り拓いた瀬田貞二氏が、日本で初めての絵本評論集



瀬田貞二 著
『絵本論－子どもの本評論集』
(福音館書店)

となる『絵本論』を出版したのが1985年11月30日のことでした。

瀬田氏の偉業と功績に感謝し、敬意を払って、小さくともその一端を担う努力をしながら、後世に継承していく活動とすべく、「絵本の日」を11月30日と決めました。創設した2012年より、絵本が持つ“人と人を結び付ける力”を、九州は福岡の地から全国へ広める活動を展開しています。

「絵本の日」が、ひとあしひとあし着実に広がっていくなか、創設5年目を記念して、絵本の新しい賞「絵本の日アワード in FUKUOKA エピソード大賞」を設けたのが一昨年のことです。エピソード大賞とは、人それぞれに持ち合わせている絵本から生まれた思い出のエピソードを募集して、絵本の魅力と絵本力を確認し、もっとも光の当たった作品を表彰する賞です。

覚えていらっしゃるでしょうか。ちょうど一年前の本連載(第41回)において、記念すべき初代「エピソード大賞」大賞受賞作品を紹介させていただきました。お父様であられる男性と、お嬢様との思い出が詰まった絵本に、お孫さんの新しい物語が芽吹いた宝物の一冊『しろいうさぎとくろいうさぎ』のエピソードに誰しもが感動し、絵本の魅力を確認し合ったのです。



2017年に、ひとあしを踏み出し始めたエピソード大賞が、昨年、もうひとあし歩を進め、第2回授賞式が11月25日に福岡市内で執り行われました。

手にするときは！

「大人こそ絵本を」Part-1

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

それでは、今回の大賞授賞作品を紹介しましょう。

第2回「絵本の日アワード in FUKUOKA エピソード大賞」

受賞者：福岡県北九州市 今津 尚子 様

作品：『ラヴ・ユー・フォーエバー』

ロバート・マンチ 作 乃木りか 訳

梅田俊作 絵 (岩崎書店、1997年)



絵本の日アワード
in FUKUOKA 2018
エピソード大賞
表彰式

私がこの本に初めて出会ったのは、ちょうど息子と離れて暮らすようになった時期です。親の都合で離婚し、離れ離れに過ごすようになった息子と2年間会うことがありませんでした。

その時に会った本が、『ラヴ・ユー・フォーエバー』でした。その当時、保育関係の仕事に従事していた私にとって、絵本はいつも身近な存在でした。離れて暮らしていても、心はいつも息子のことでいっぱいでした。息子の誕生日が近づくにつれ、会うことは叶わなくても「母」としての思いを伝えたいと思いつつ、悶々とした日々を過ごしていました。

ある日、ふと立ち寄った本屋の絵本コーナーに『ラヴ・ユー・フォーエバー』が展示されていました。タイトルに惹かれ思わず手に取り、読み進んでいくうちに「これだ！ 私の思いが詰まった内容だ！」と思い、即座に購入しました。そして27歳になった息子へ、手紙の代わりにこの絵本を郵送しました。「あなたが生まれた日は12月だったけれど、お天気が良く、温かい穏やかな日でした。お母さんの一番幸せな時期は、あなたがお腹にいた頃、もう私は一人ぼっちじゃないと思える時期でした」と書いたメッセージカードとともに…。

仕事が忙しく、幼い息子とゆっくりと過ごせる時

間は、就寝前のほんのひと時でした。毎晩一冊の絵本と出会い、息子と絵本の世界の住人として色々な世界を旅してきました。その思い出は、息子が成人したのちも息づいているのだろうか…。

息子の27回目の誕生日に、その答えは返ってきました。留守番電話のメッセージに、「かあさん、僕を生んでくれてありがとう。ずっと感謝していたよ」。幼いころに読み聞かせをしてもらった温かな空間と時間の流れは、かけがえのない親子の共通の記憶として息づいていました。

現在、大学教員になった私は、学生に語り継いでいます。

「アイ・ラヴ・ユー いつまでも
アイ・ラヴ・ユー どんなときも
わたしが いきているかぎり
あなたは ずっと わたしのあかちゃん」



『ラヴ・ユー・フォーエバー』
ロバート・マンチ 作
乃木りか 訳 梅田俊作 絵
(岩崎書店)



「アイ・ラブ・ユー」言葉の力、絵本の力

『ラヴ・ユー・フォーエバー』は、表紙カバー見返しに「親子の愛情のきずなを静かに語って感動を呼ぶアメリカの超ベストセラー」¹⁾と記されているように、幾億組の親子がもつ愛情物語の、幾億パターンそれぞれに対して、静かに語りかけ、共感や感動を呼んでいる絵本です。その見えない力こそ、あらゆる絵本が持ち合わせている「絵本力」なのです。

お話のテーマは、母親と息子の絆です。その絆のカタチとは千差万別で、その千差万別の人々が同じ絵本を読んだとしても、人生観や生き方によって化学反応を引き起こし、それぞれの物語に生まれ変わって歩き始めるのです。

原作は、1986年にアメリカで出版されてから、1,500万部のロングセラーとなっているのですが、絵本として生まれるまでの道程には大きなエピソードがあります。作者のロバート・マンチ氏は、児童養護施設で働きながら、福祉児童学科で修士の学位を取った経歴をもちます。そして、子ども向けの絵本を書くことに人生を捧げていた折に、妻が死産を2度経験し、その辛苦を乗り越えるため、「アイ・ラブ・ユー」のシンプルな4行詩を創って、自分自身に静かに歌いかけたことがこの絵本の始まりです²⁾。

絵本から生まれる物語。人生物語から生まれる絵本

マンチ氏は長い間、自作の「アイ・ラブ・ユー」を妻に伝えることができなかったのですが、後々になって、「この歌は、私の泣き声そのものでした」とハフポストUS版で語っています²⁾。悲しい物語はまだ続き、マンチ夫妻は医師に「もう子どもを産むことはできない」と宣告を受けるのです。夫妻は悲しみの後、3人の子どもを養子に迎えました、

死産した2人の子を悼むため、氏は子守唄のように静かに歌い続けました。

そんなある日、マンチ氏の頭にひとつのストーリーが浮かび、「ラヴ・ユー・フォーエバー」の歌が完成しました。そうして初めて、「ラヴ・ユー・フォーエバー」を妻が聴くことになったのです。

絵本という形になったのは、その後のことですが、絵本化に当たっても順風満帆ではありませんでした。現在でこそ、ロングセラーになり光を浴びているお話も、初めて出版社に持ち込んだときは、「毛が逆立つくらい怖い話だ」と断られたのです。しかし、オンラインのレビューで反響を受けたことで、絵本化が実現することになりました²⁾。マンチ作品の中で、最も紆余曲折し、唯一、子ども向けの絵本で終わらなかった珠玉の作品です。

マンチ氏は作品について、「この絵本を誰かが手にしたそのときに、この物語は私の物語ではなく、手にした人の物語になるのです」²⁾と述べている思いのとおり、日本で、『ラヴ・ユー・フォーエバー』から生まれたひとつの物語が感動を呼び、脚光を浴びたのです。

こんなにも深い！「絵と言葉」のコラボ

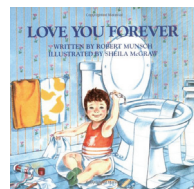
一冊の絵本が生まれるまでの過程に深いエピソードがあれば、その絵本を読んだ読者それぞれに生まれるエピソードもあり、短いストーリーのピクチャーブックに潜んでいるパワーを、そこかしこに見ることができます。

それだけに留まらない絵本の奥深さにもう一步、踏み込んでみましょう。世界各国で愛され続けている『ラヴ・ユー・フォーエバー』は、日本では1997年に乃木りか氏の翻訳で出版されました。日本語版は言語だけでなく、なんと絵までも、日本の画家・梅田俊作氏によって描き替えられており、原作と日本語版を並べてみると、一見同一書であることに気付かないのです。日本語版では、原作の

McGrawの絵とは全く雰囲気異なる、日本の文化が融合された絵本として親しまれることになりました。

翻訳作品にとって言葉と同様、挿絵が重要な一要素なのですが、翻訳研究では「挿絵が作品の価値に大きく寄与するような場合であっても、それが翻訳される際には、そのまま引き継がれるわけではない³⁾とされています。例えば、「西洋のイラストに描かれたファッションや背景、人物が慣れ親しんでいる日本の事物、あるいは、日本の読者用に改作した翻案の内容と、あまりにも懸け離れている場合」が該当します³⁾。「翻訳において言語テキストに何らかの変容が見られるのと同様に、非言語要素にも必要だとする判断に応じて何らかの変更が加えられることがある」例として、藤濤文子氏は『ラヴ・ユー・フォーエバー』を示して、原作の表紙絵がトイレであることに触れ、「これではプレゼントに向かず、大人から見て買いたい本ではないという判断があったのでしょうか」と考察しています⁴⁾。

『LOVE YOU FOREVER』
Written by Robert Munsch
Illustrated by Sheila McGraw
(FIREFLY BOOKS)



通常、日本語翻訳版では明らかに子ども読者向けの本として提示され、想定された子ども読者との橋渡しが目指されていることが多いのですが、本書の場合、原作が子ども対象の絵であることに対して、日本語版では子どもとともに、大人も読者対象として明確に位置づけられた節があるようです。

大人こそ絵本を！

『ラヴ・ユー・フォーエバー』は2014年、日本でさらに全く新しいテキストになって、1997年版と同じ岩崎書店より出版されました。非言語要素である

絵は、「大人こそ絵本を」⁵⁾と提唱している柳田邦男氏の妻いせひでこ氏によるものです。新訳は、聖路加国際病院小児科センター長の細谷亮太医師で、タイトルも一変され、『かしの木の子もりうた』と命名されました。

生命を見つめるお二人が互いに原作を読み直して、人間の成長を四季に置き換え、木の移ろいになぞらえて表現した新版『ラヴ・ユー・フォーエバー』は、「生命の継承」に視点をおいた新訳として生まれ変わったのです。いせ氏の描く淡い色調のやさしい画は、赤ちゃんがやがて青年へと成長していく様が透明感のあるタッチで清々しく描写されていて、大人に向けた生命の絵本に仕上がっています。

絵本は子どもだけのものではなく、大人が子どもと読みあうためのものであり、かつ大人自身のものでもあって、大人の心を潤し癒し、心の深いところへ誘ってくれる栄養なのです。「絵本の日アワード in FUKUOKA エピソード大賞2018」で、本連載の原点に立ち返らせていただきました。



11月30日は
「絵本の日」



文献

- 1) ロバート・マンチ作、乃木りか訳、梅田俊作 絵：ラヴ・ユー・フォーエバー、岩崎書店、東京、1997。
- 2) Carla Herreria: The Heartbreaking Story Behind Iconic Children's Book 'Love You Forever', The Huffington Post HP: <https://www.huffpost.com> Updated February 22, 2017.
- 3) 藤濤文子：翻訳とパラテキストとしての挿絵、国際文化学術研究：神戸大学大学院国際文化学術研究紀要 42, p.89-103, 2014.
- 4) 藤濤文子：視聴覚翻訳における非言語要素の役割、立教大学異文化コミュニケーション研究科2014年度公開講演会 第3回, p.7-17, 2014.
- 5) 柳田邦男, 他：絵本の力, 岩波書店, 東京, pp.119-201, 2001.